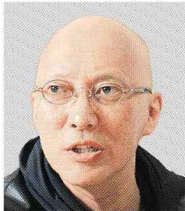


斎藤歩さん死去

60歳 札幌拠点の演劇人



北海道演劇財団理事長で、道内演劇界をけん引してきた俳優、演出家、脚本家の斎藤歩（さいとう・あゆむ）さんが11日午前4時40分ごろ、尿管がんのため札幌市内の自宅で死去した。60歳。釧

路市生まれ。葬儀・告別式は近親者で行う。お別れの会を後日開く。

（関連記事24面）

札幌、大阪、千葉県などで育つ。北海道大学で演劇と出会い、演劇研究会で活躍。北大中退後の

1987年、劇団「札幌ロマンチカシアター鮎（あゆ）縄（な）」設立。96年の北海道演劇財団設立に伴い、同財団が運営するTPS（シアタープロジェクト）さっぽろ、現・札幌座の契約アーティスト（後

にチーフディレクター）に就任した。

2000年に演出作品「逃げてゆくもの」が文化庁芸術祭優秀賞を受賞。同年から東京に拠点を移し、長身と不敵な存在感を持つ個性派俳優として舞台に加え、映画「刑務所の中」やドラマなどで活躍、強烈な印象を残した。

16年からは地元の要望にこたえて札幌に戻り、22年まで同財団の芸術監督、20年から理事長。後進の育成や道内の演劇環境整備、自身の作品作りに尽力した。演劇フェスティバル「札幌演劇シーン」では21年から24年までプログラムディレクターを務めた。

脚本家としては「冬のバイエル」をはじめ、道内を舞台に人間模様の機微を描いた佳品を多数発表。劇中の音楽も手がけるなど多才ぶりを見せた。ハンガリーや韓国、

サハリンとも演劇交流。23年度札幌芸術賞、24年に北海道新聞文化賞（社会部門）を受賞した。21年にがんで余命宣告

された後も活動。今年5月6月の札幌座の公演「葉桜」でも、自宅療養しながら稽古場の動画を

見て演出した。（渡部淳）